

LD (APC) ドライバ OS-WKNC/HL T2

1. 性能

- ・ 単一電源DC+5V (3.5~12V) 供給でCW/300mAまで駆動可能
- ・ 立ち上がり時間は100μs以内、立ち下がり時間は100μs以下
- ・ 電極のショート選択により、すべてのLDタイプ (N、P、M) に適応可能
- ・ 基板上のトリマでLD絶対出力及び通常出力の設定が可能
- ・ 出力安定度±1.5%以内
- ・ 温度異常やLD過電流に対し自動的にシャットダウン (必ずシャットダウンするわけではありません)
- ・ 外部変調はDC~数kHzまでの変調が可能
- ・ 駆動電流100mA以上では、基板裏面とLD本体にヒートシンクが必要

2. 基板の説明

外形寸法：8.5W×21.5L×3H (mm)

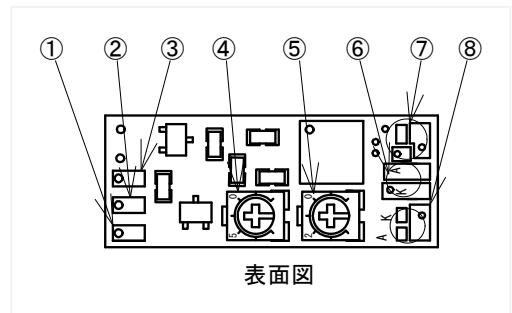
各部の名称と機能

表面

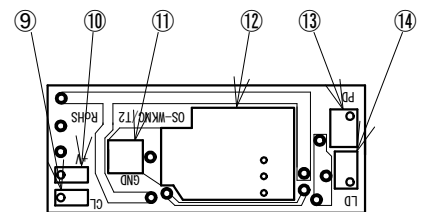
- ① パワーサプライ：+GND用電極
- ② パワーサプライ：+3.5~12V用電極
- ③ 外部コントロール：TTL正論理入力用電極
- ④ トリマVR1：出力設定用ポテンシオメータ (右回転で増)
- ⑤ トリマVR2：出力設定用ポテンシオメータ (右回転で増)
- ⑥ コモン：アノード又はカソード選択用電極
- ⑦ LDホット：極性選択用電極
- ⑧ PDホット：極性選択用電極

裏面

- ⑨ 外部コントロール：TTL負論理入力用電極
- ⑩ パワーサプライ：+3.5~12V用電極
- ⑪ パワーサプライ：GND用電極
- ⑫ ヒートシンク用パッド (GND)
- ⑬ PDホット脚接続用電極
- ⑭ LDホット脚接続用電極



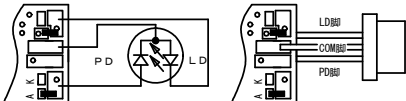
表面図



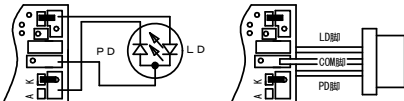
裏面図

接続の例

NタイプLDの接続：■の電極をショートさせる



PタイプLDの接続：■の電極をショートさせる



MタイプLDの接続：■の電極をショートさせる



注意事項

- 1) TTL負論理用と正論理用は別基板とすること。
- 2) 表面の+電極と裏面の+電極は接続しないこと。
- 3) 供給電圧6V以下でCW駆動のみで使用する場合は②と③をジャンパ線などで接続しCWとして使用できる。
- 4) 供給電圧6V超でCW駆動のみで使用する場合、③と①の接続には適当な負荷抵抗を挿入すること。
- 5) 裏面、LD素子の接続ではLDホット電極とPDホット電極はショートしないこと。